

Pad用の読み聞かせアプリを、Apple TVで大型テレビに映し出し、画面を見ながら話を聞けるようにした。大型絵本では移動しにくく大変であったが、無線LANを活用し、iPad画面を映し出すことで、個別に見せることやみんなで共有することが簡単にできるようになった。



ICT機器を使った障がいのある児童生徒の学習支援

―児童生徒の自主的な取組みを引き出すタブレット端末の活用―



県立ゆきわり養護学校

教諭 武田 和久

一 はじめに

全国的に教育の情報化が進む中、特別支援学校の現場でもICT機器を活用した学習支援が増えてきている。特に、本校のような肢体不自由特別支援学校においては、児童生徒の障がいの状態が重度・重複化し、発語や身ぶりでの意思伝達が非常に難しい児童生徒や、障がいが軽いとされる児童生徒でも、肢体や手指の障がいのために書字や操作に困難がみられる児童生徒が多くなってきている。

そうした状況の中、手軽に持ち運ぶことができ、タッチパネル等の簡単な操作で動くタブレット端末等の支援機器は、個々の障がいによるこれまでの課題を改善・克服する手段の一つとしてとても有効である。

本校では、ICT機器の活用を始めたばかりであり、全国の特別支援学校での活用方法や実践例を参考にしながら、標準的な教育課程、知的障がいを併せもつ教育課程、自立活動を主とする教育課程ごとに活用の情報を収集している。そのような中で、障がいのある児童生徒が、自らタブレット端末に

車いすに座ったままでもiPadに触れることができる活動なので、自分の可動範囲内に機器を置き楽しく取り組むことができたと思われる。

本校の教員からは、生徒自身が笑顔で楽しく取り組んでいたことや、筆圧が弱く書くことが苦手な生徒でもタブレット端末を使うことでスムーズに字を書くことができたことに、感心したなどの感想が聞かれた。また、実際にiPadに触れてみるの使いやすさやアプリの種類が多さに驚きの感想も挙げられた。

二 大型テレビを使った授業

本校での自立活動を主とする教育課程では、集団での学習の機会が多く、教室に大型テレビを活用した授業が効果的であると思われることから、大型テレビを活用し、大きく見せることによって生徒同士が課題を共有できると考えた。

今までは拡大絵本などを使い、生徒の前に教員が移動しながら全体へ提示し、本の読み聞かせを行っていた。そこでiPad用の読み聞かせアプリを、Apple TVで大型テレビに映し出し、画面を見ながら話を聞けるようにした。大型絵本では移動しにくく大変であったが、無線LANを活用し、iPad画面を映し出すことで、個別に見せることやみんなで共有することが簡単にできるようになった。

触れようと手を伸ばしたり自ら練習問題に取り組んだりするなど、これまでと違う姿が見られるようになってきた。ここでは、知的障がいを併せもつ教育課程での教科学習と、自立活動を主とする教育課程での学習活動について紹介したい。

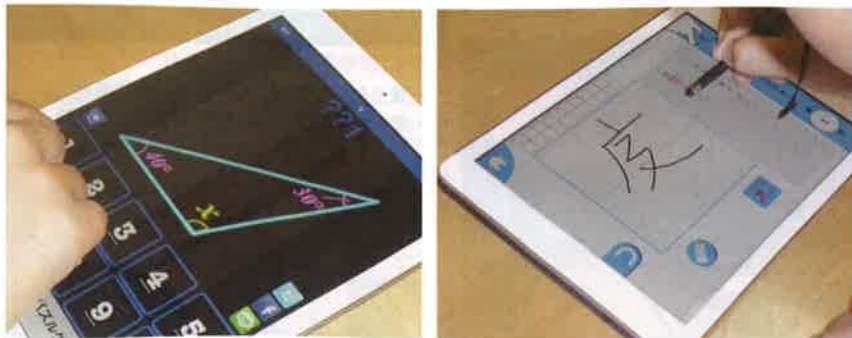
二 授業での実践

(一) 知的障がいを併せもつ教育課程での授業における活用

高等部の生徒と一緒に国語、数学、音楽の学習に取り組んだ。国語では漢字の書き取り、数学では角度を求める問題に取り組んだ。初めてICT機器を使う生徒でも、自分の手で触れることができるiPad（タブレット端末）を使うことで、ICT機器を身近に感じ、タッチペンを使いながら繰り返し問題に取り組むことができた。解答もアプリが自動で行うため、問題の即時評価に繋がりが、正答の印をもらう度に笑顔になり、楽しく学習に取り組むことができた。

入力方法もタッチペンや指先を使って試してみたが、文字や数字などを取り扱う際には、タッチペンの意図も高められた。

音楽では、画面上に表れる鍵盤をタッチする活動に取り組んだ。



また、スヌーズレンのアプリを使って、iPad画面をタッチすることで、大型画面から出る光や音声に聞き入る生徒もおり、実際のスヌーズレン器具と同等の効果があるのではないかと思われた。

今回は無料のアプリを活用して授業を行ったが、無料アプリの中にも特別な支援が必要な児童生徒が楽しく学習に取り組むことのできる教材はたくさんあった。中でも、下学年の学習に活用できる小学生を対象としたアプリが非常に多いことが分かった。さらに、本校の小学部に準ずる教育課程の児童だけでなく、中・高等部の知的障がいを合わせた教育課程を中心とする生徒にも、漢字の学習や計算の学習などに活用できるアプリがあることが分かった。

三 おわりに

タブレット端末を活用することで、教科書や学習プリントを使用したペーパー上での学習以上に音声や動く画面があるため、興味や関心が湧いてくる様子を感じた。また障がいのある生徒にとっても機器の操作がやさしく、楽しく取り組める機器であることがわかった。このことから、iPadなどのタブレット端末は児童生徒が主体的に学習に取り組める機器であると感じている。

最後に、本校ではiPadを活用している様子をグループウェア上に記録し、職員の校務用パソコンを通して見ることができるようになっている。今後は、ICT機器を活用した実践例を増やしていくことで、本校の児童生徒にとって学習上又は生活上の困難であるコミュニケーション力を改善でき、学習の効果を高めることができるのではないかと考えている。